

家畜衛生

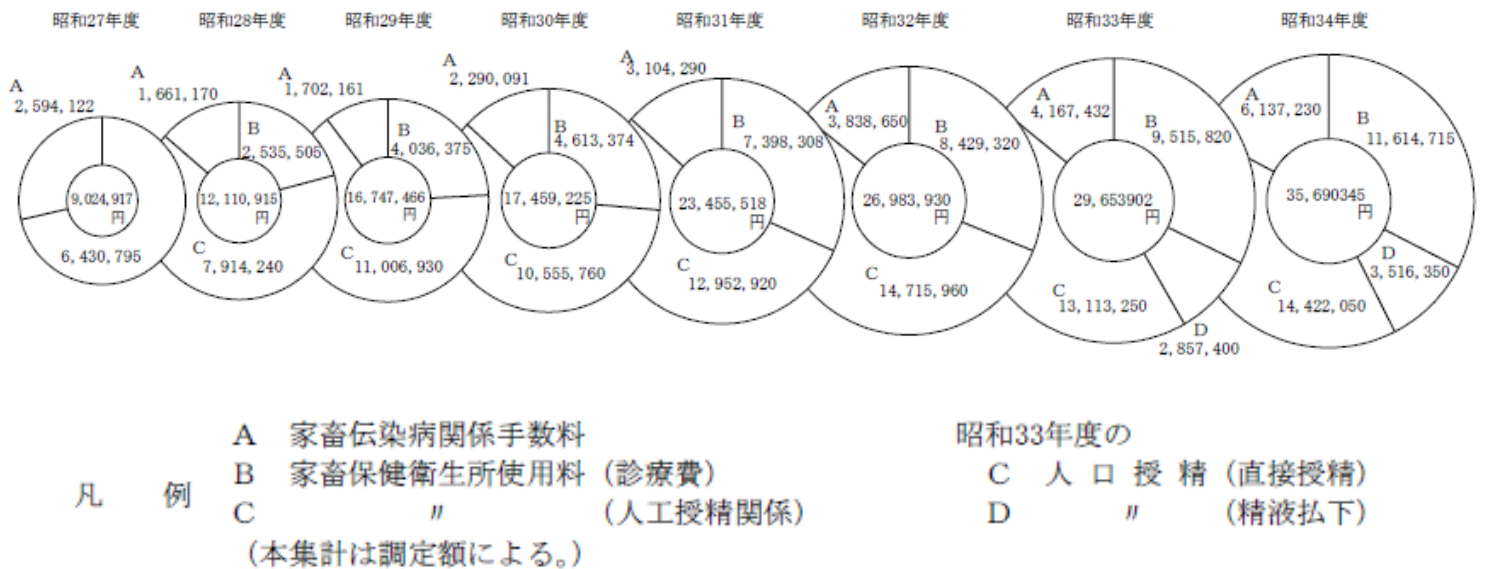
その一 家畜保健衛生所

終戦後の動乱期に際し、衰微した畜産を何んとか建て直したいものとの関係者の要望が高まり、昭和23年度を初年度として、別表のように現在まで、本所24カ所、支所4カ所、計28カ所の家畜保健衛生所（以下衛生所と略称する。）が、県下の畜産主要地帯に設置され、本県畜産の推進拠点として、日夜各事業に撓ゆまない努力が続けられています。

その間家畜保健衛生所法が昭和25年3月に施行されるとともに事業も軌道に乗り、畜産の振興に伴って年々その事業量は累増し、畜産行政の第一線機関として又、有畜農民のサービスセンターとして欠くことのできない機関になっています。そして昨年11月には法施行10周年を記念して、県大会及び中国ブロック大会が岡山市で、更に本年4月東京で全国大会が盛大に開催されました。

しかし、衛生所の設置、育成、発展の過程は決して平易なものではなく、設置にあたってはその誘置運動は激烈を極め、紆余曲折したことも数ありますが、何れ

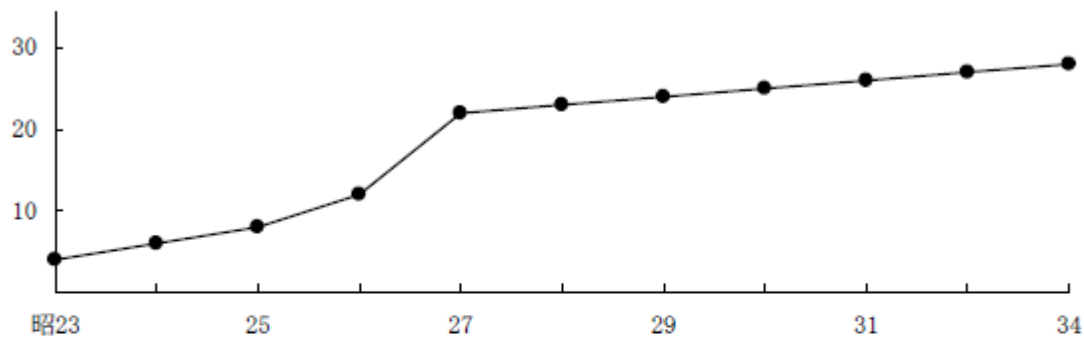
(グラフ) 最近の家畜保健衛生所の収入額の推移



も設置関係町村の絶大なる要望と援助により誕生を見ています。そしてその必要性がだんだん認識されるとともに管轄区域も次第に拡大され設置数も増え、昭和31年6月に農林事務所の新設により現行のように管轄区域も全県下に及び、その運営は農林事務所の統轄下に入って参りました。又人容面においても、機動力においても別表のように逐次充実し、長年の懸案であった役付衛生所も昭和34年8月、日本原など4カ所、本年4月更に倉敷など3カ所、計7カ所が出現し、より一層の飛躍に備えています。又設置以来自発的に生れた各後援会組織によって、女子職員その他の運営経費が積極的に援助され、施設面も漸次新改築及び増築されて近代的なものに生れ変わりつつあります。

このように全国でも稀れにみる衛生所が育成されたのも、設置当初から惣津旧畜産課長の十余年に及ぶ一貫した御尽力の賜で、吾々関係者はその功績に対し深く感謝の意を表するとともに、衛生所の尚一層の発展を期するものであります。

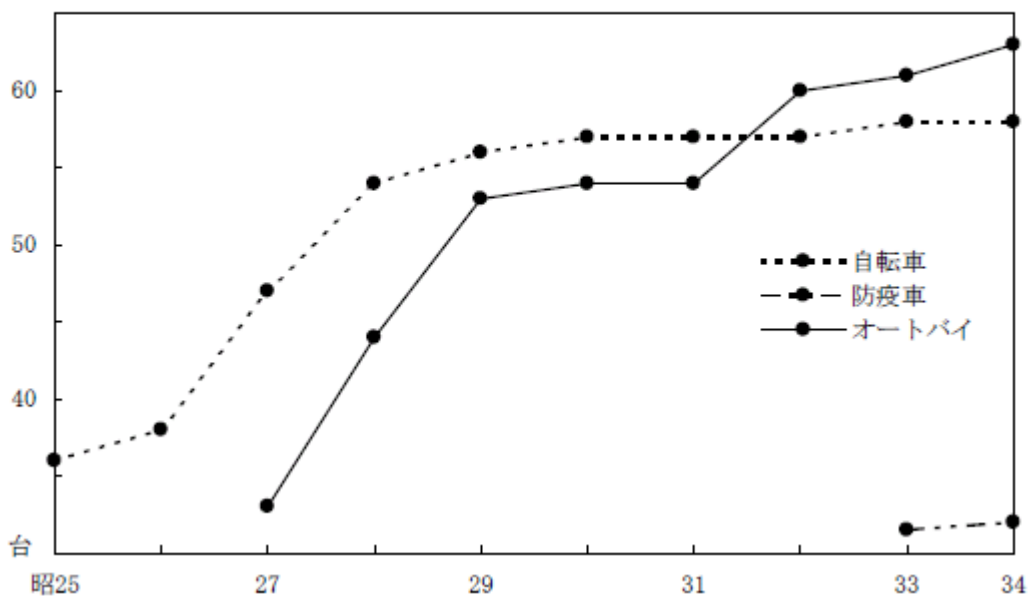
設置状況



総人容



機動力の推移



その二 家畜防疫

本県の家畜防疫史を眺めると、戦前及び戦時中には牛肺疫、口蹄疫の危険にさらされ、狂犬病、豚コレラ、トリコモナス病、気腫疽など急性熱性若くは悪性伝染病に見舞れた年も相当見受けられますが、戦後は初期

は別として、過去10年間の状況は、結核病、ブルセラ病、ひな白痢など一般伝染病の発生に留り、しかもその発生率は年々減少して防疫効果は見るべきものがあります。このことは毎度申し上げるように恵れた環境にもよるが、それにもまして家畜保健衛生所を拠点

岡山畜産便り1960.05

とした防疫陣の不断の努力の結果であります。

しかし、家畜保健衛生所の設置前及び設置当初の数
年間、即ち防疫陣の手薄な時代は相当悪疫に悩まされ
ており、中でも昭和24年から26年にかけて猛威を揮っ
た牛の流行性感冒は記憶に新しいところで、特に昭和
25年度は4万3,000余頭の流行を見、その対策に畜産
界総力を結集し、中には治療対策に倒れる一步前まで
活躍した人も数あり、当時は京阪神から山陰まで薬品
を買い漁り、動物用がなくて人医用まで使ったことも
懐しい思い出になります。本年度はこの流感も異系型
として発生、まん延が必至と見られ、今からその対策

に腐心しています。又昭和26年には現在の井原市県主
にニューカッスル病が発生し、現地に防疫本部を置いて防あつに炎天下を努めたこと及び同じ26年に倉敷
の水島の韓国人部落に突如豚コレラが大発生し、まん
延防止に腐心したこと又戦後G・H・Qの干渉で馬の
流行性脳炎対策に跳び歩いたり、トリコモナス残物整
理に移動防疫陣を置いたこと並びに結核牛の裁判事
件など浮び上って参ります。しかし前述のようにその
後の防疫は別表の示すとおり、平穩裡に終わっています。

発生状況

| 病名 \ 年度 | 昭22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 |
|---------|-----|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 結核病 | — | 32 | 31 | 42 | 23 | 34 | 9 | 10 | 15 | 16 | 5 | 7 | 12 |
| ブルセラ病 | — | 4 | 18 | 15 | 5 | 3 | — | 1 | — | 8 | 2 | 4 | 4 |
| トリコモナス | 47 | 95 | 197 | 182 | 9 | — | 38 | — | — | — | — | — | — |
| 牛の流感 | — | — | 2,540 | 43,827 | 1,863 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 気腫疽 | — | — | — | — | — | 1 | — | 1 | — | — | — | — | — |
| 午の伝貧 | 6 | — | 1 | 4 | 26 | 12 | 13 | — | — | 1 | 1 | — | — |
| 馬流行性脳炎 | 6 | 2 | — | 3 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 豚コレラ | — | — | — | — | 1,281 | 15 | — | — | — | — | 29 | — | — |
| 雛白痢 | 687 | 722 | 1,521 | 3,430 | 3,514 | 4,542 | 3,578 | 5,886 | 4,468 | 5,258 | 8,063 | 7,171 | 6,491 |
| ニューカッスル | — | — | — | 140 | 1,119 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 腐そ病 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 13 | 2 | — | — |

その三 家畜人工授精

本県における人工授精の沿革は、大正年間に端を發
するらしいが、実用化の段階に入ったのは戦時中トリ
コモナスの跳梁に悩まされ、この防あつ対策として昭
和19年苫田郡加茂町に人工授精所（現加茂家畜保健衛
生所）を開設し、本格的に事業を始めたことによる。
その後昭和22年10月に県の施策として、家畜改良増殖
技術員制度ができ、その技術者が県下8カ所の県指定
家畜人工授精所に配置され、その普及は漸く世の注目
を浴びることになりました。そして昭和25年5月家畜
改良増殖法が施行されるに伴ない、家畜保健衛生所

（人工授精所併設）の設置と相俟って急速に普及
進捗し、隆盛な今日の基礎がつくられました。その間
団体及び個人経営による施設も雪ダルマ式に膨れ、こ
れに必要な家畜人工授精師も年々養成され、根強よい
農村の陋習を破って別表のように驚威的な普及を遂
げ、又その成果として悪疫も絶え改良増殖面も目に見
えて進んできました。そして現在では酪農試験場、岡
山県家畜人工授精所、蒜山分場及び和牛試験場をメイ
ンセンターとし、家畜保健衛生所及び民営施設の一部
をサブセンターとして、縦横に人工授精組織網を確立
しています。

岡山畜産便り1960.05

このように、ここ十数年間に日進月歩の発展を遂げた要因は、人工授精の知識、技術の進歩によるもので、現在では夢想だにしなかった凍結精液の実用化にまで至っています。本県でも昨年8月末に第4下前号の

現地凍結に成功及びその受胎試験の好成績により、本年度は精液超低温恒温装置を購入配置し、本格的な実施段階に入っています。

